

赤潮情報（2）

令和6年7月5日

各漁業協同組合長 殿

福岡県水産海洋技術センター
豊前海研究所長

7月5日に全域調査を行った結果、有害プランクトンのカレニア
ミキモトイとシャットネラ属の赤潮が確認されました。

魚介類によってはへい死の恐れがありますので、漁獲物の港内での蓄養
は避け、早めの出荷を心がけてください。また変色域付近ではスカッパ
ーを閉めて航行するなど、活け間の魚の状態にも注意してください。

<有害プランクトンの状況>

○カレニア ミキモトイの1mlあたりの最大密度は3,390細胞でした。

- ・ 蓑島地先でカレニア ミキモトイの赤潮による着色が認められました。
- ・ 本種は、海水1mlあたり数千細胞で魚介類に被害を及ぼします。
- ・ また、増殖初期は中層で増殖する性質を持っているので、海面からの観察では着色が判別しにくい種類です。

○シャットネラ属の1ml当たりの最大密度は692細胞でした。

- ・ 蓑島～稲童地先では、海水1mlあたり100細胞を超えています。
本種は、100細胞程度に増えると魚がへい死する恐れがあります。
- ・ また、本種は海水1mlあたり500細胞以上になると、海水の変色が目視でき
ますが、変色が確認される前の低密度の状態でも漁業被害が生じる恐れがあ
ります。
- ・ なお、表層の変色がなくても中層～底層に移動して増殖している場合がありま
すので、海水の変色が見られない場合でも注意が必要です。

<今後の対応>

○研究所では引き続き調査を実施しますので、今後の情報にご注意下さい。

※漁業被害、海面の着色などがみられましたら、

豊前海研究所(0979-82-2151、担当:恵崎、増田)までご連絡下さい。

漁場調査結果

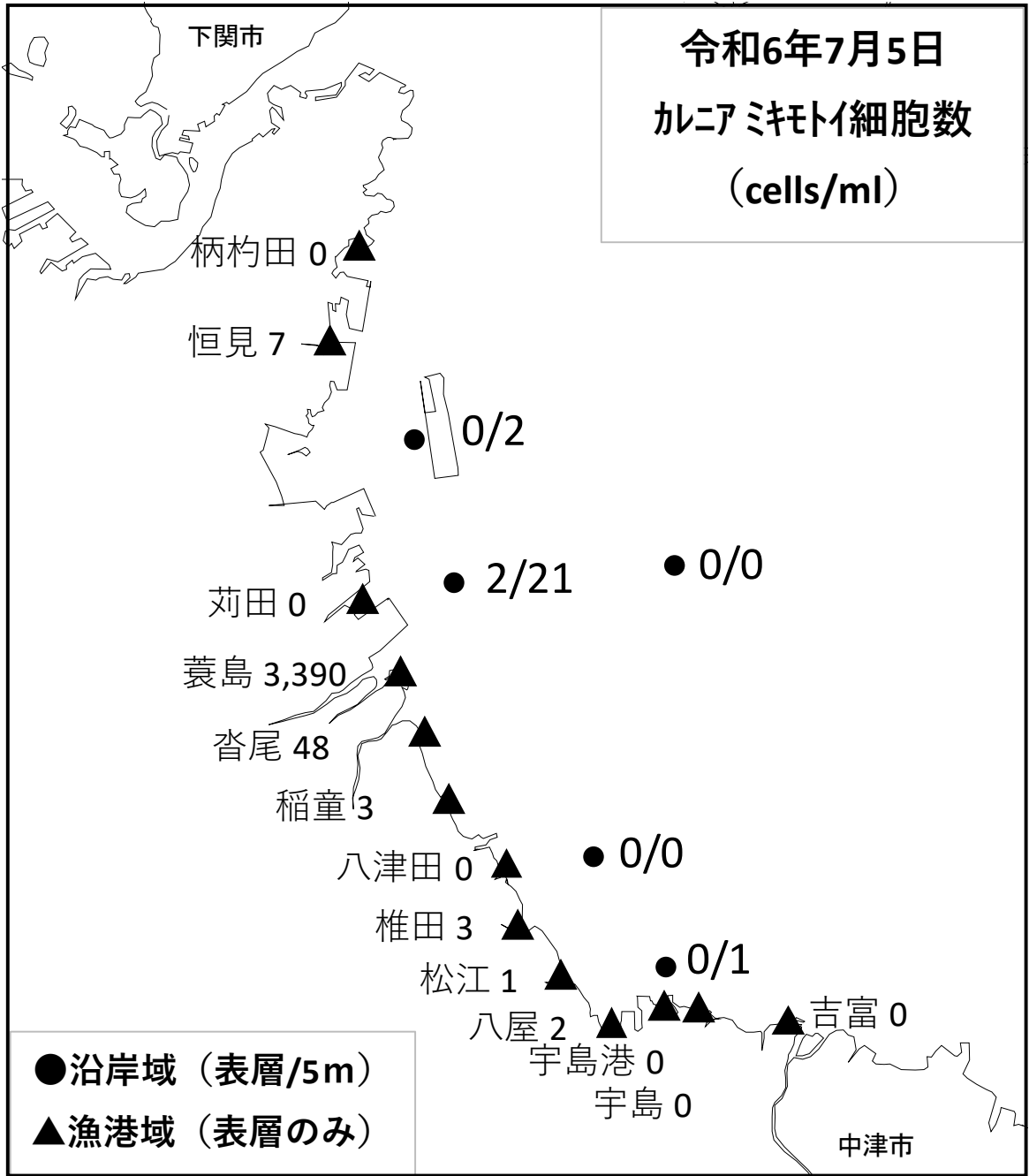


図1 カレニア ミキモトイの漁港域および沿岸域の細胞数

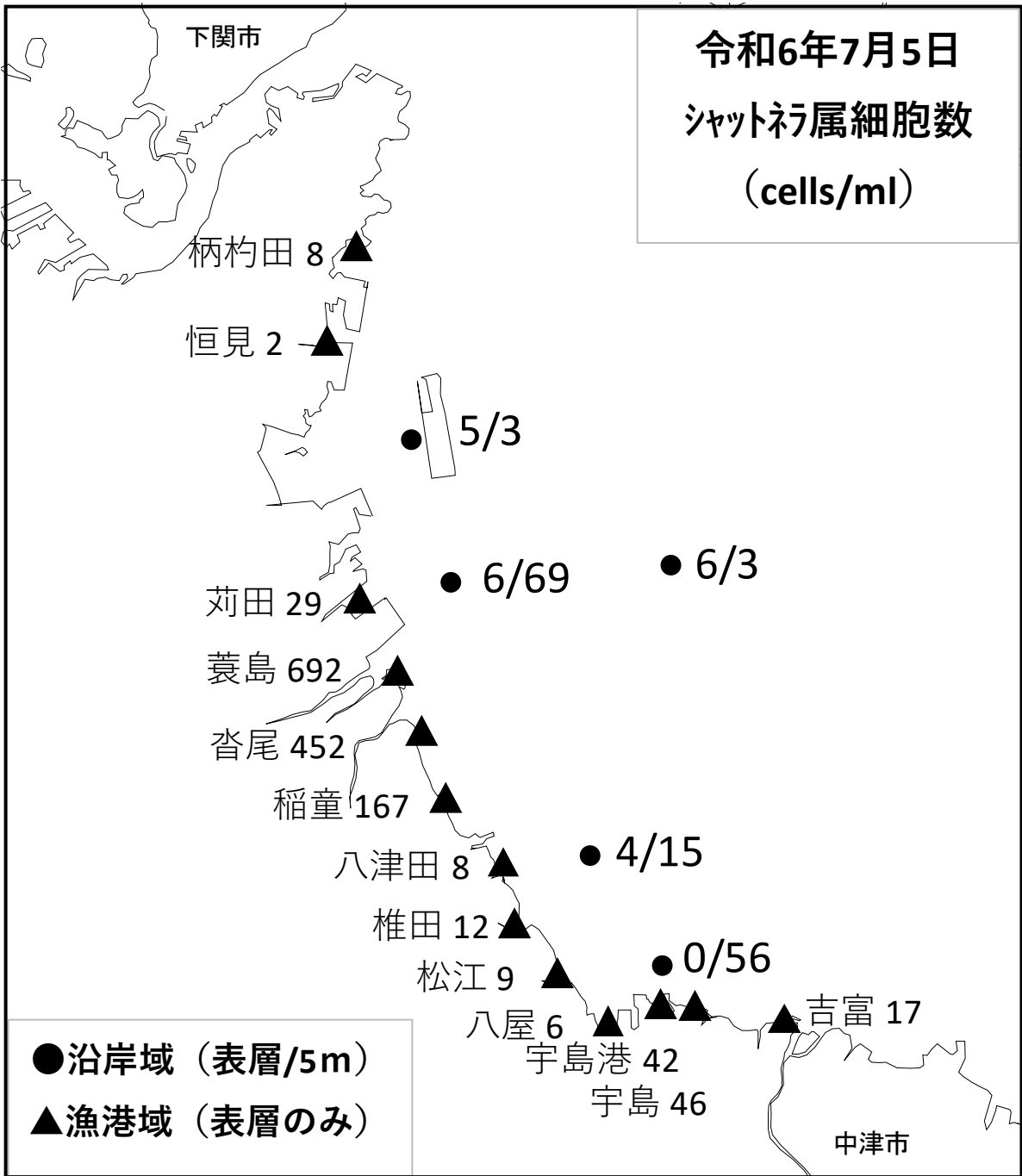


図2 シャットネラ属の漁港域および沿岸域の細胞数